

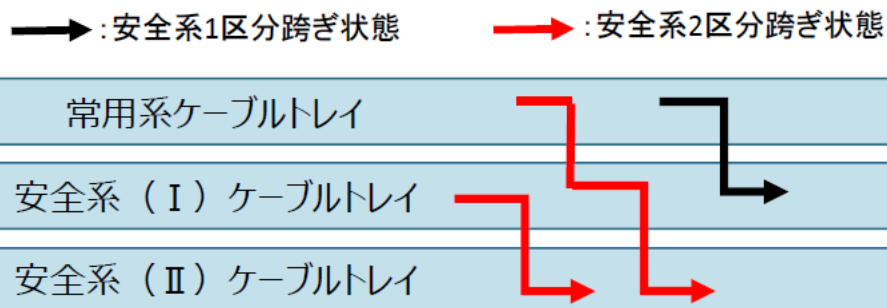
福島第二原子力発電所におけるケーブル敷設状況の調査結果

中央制御室床下のケーブル敷設状況調査、分離板等の調査、中央制御室制御盤内のケーブル調査、現場ケーブルトレイ調査を実施した結果は以下の通り。

号機	中央制御室床下		中央制御室制御盤内	現場ケーブルトレイ	
	分離板または分離バリアの損傷等の箇所数	異区分跨ぎのケーブル本数		安全系を2区分以上跨ぐケーブル本数	安全系を1区分跨ぐケーブル本数※3
1	- ※1	0	0	2	380
2	- ※1	0	0	6	85
3	82	216 ※2	9	2	82
4	0	18 ※2	27	0	60
合計	82	234 ※2	36	10	607

- 1・2号機中央制御室については床下がフリーアクセス構造ではなく調査対象外となる。
- 原子力規制委員会への報告書（2015年11月30日提出）にて報告済み。
- 安全系区分が異なるケーブルトレイは分離距離の確保により「火災の影響軽減」が講じられている。したがって1区分跨ぎについては、複数の安全系区分が同時に機能喪失する状態ではない。

ケーブル跨ぎの概念図



福島第二原子力発電所 3号機におけるケーブル跨ぎ例

< 正常な敷設状態 >



< 異区分を跨いで敷設されていた事例 >

